

## 失敗なしで、成功する人間なんていない (小菅正夫)

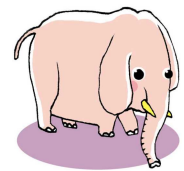
校長 桐野 和之

北海道旭川市の旭山動物園は、日本で一番北にある動物園です。一年の半分近くを雪に閉ざされてしまいますが、とても人気があり、一年間に一六五万人もの人が訪れます。ところが、今から二〇年ぐらい前は、お客さんが毎年どんどん減っていき、閉園の噂さえささやかれていたのです。そして、閉園前のどん底動物園の園長に就任したのが、小菅正夫さんでした。



旭山動物園にいる一五〇種類ほどの動物は、どこの動物園にもいる動物です。パンダのような珍しい動物はいません。でも、小菅園長は動物たちの生き生きとした姿が大好きでした。ですから、お客さんの数が減るだけでなく、「この動物園の動物を見ても、つまらない。動物たちは寝てばかりいる」と、お客さんがつぶやいているのを聞くと、悔しくて仕方ありませんでした。そこで、小菅園長は、動物園の復活のために飼育員さんと何度も話し合い、「動物たちの生き生きとした姿に、お客さんたちが感動する理想の動物園をつくろう」と決心しました。ここから、旭山動物園の挑戦が始まったのです。

最初の取り組みは、飼育員さんが担当する動物の解説をする「ワンポイントガイド」や、餌やり風景を見せる「もぐもぐタイム」でした。もちろん、すぐにうまくいったわけではありません。失敗もたくさんありました。でも、「失敗を恐れず挑戦しよう。挑戦しなければ、未来は切り拓けない」と。小菅園長は動物園の人たちに語り続けました。しばらくすると、見知らぬ人にガイドしているお客さんや、はじめて来た友だちを案内しながら歩いているお客さんの姿を見かけるようになりました。何よりも、動物の生き生きとした姿に喜び、笑顔のお客さんが増えたのです。



自信を得た小菅園長は、飼育員さんとアイデアを出し合い、動物の素晴らしい姿を見ることができる施設をいくつもつくりました。空を飛ぶようなすごいスピードで、ペンギンが水中を泳ぎ回るペンギン館、透明な円柱のトンネルを、アザラシが気持ちよさそうに泳ぐアザラシ館。他にもたくさんありますが、そのどれもが、失敗を繰り返しながらつくりあげたものなのです。



理想の動物園をつくろうという取り組みは、今も続いています。そこにたどり着くのに長い年月がかかるでしょうし、終わりのない挑戦かもしれないかもしれません。でも、小菅園長はこうも言っています。

「努力は報われないかもしれませんが、努力をしなければ絶対に何も生まれません。未来のことなんて、やってみないと分からないことばかり。だから、失敗しながら進んでいくしかないのです。失敗しないで、成功する人間なんていないのですから」

失敗は成功の入り口です。迷ったときこそ、やってみましょう。行動を起こさない限り、未来を切り拓き、希望を実現することはできません。うまくいかなかった希望は、考え直したり、修正を重ねたりすることで、新たな希望へと生まれ変わることができるのです。

# 1年歯科巡回指導 7/8

光が丘保健相談所歯科衛生士さんと学校歯科医さんによる歯科巡回指導は、クイズから始まりました。

乳歯は20本ですが、永久歯は最終的に何本になるのかという問いかけです。

答えは28～32本です。乳歯の後に生えてくる歯とともに、親知らずの歯が生えてくるそうです。

次に歯の役割について教えてもらいました。3つあるそうです。

①食べる。②話しをする。③顔の形を整える。

特に食べることと関係する噛むことは、唾液が出て、消化を助け、おいしく食べることにつながる。また、食べ過ぎを防いだり、脳の動きを活発にしたりする働きがあることを教えてもらいました。

さらに、唾液は口の中の細菌を防ぎ、口の中を整えるとともに、酸性になっている口の中を中性に戻すことも学びました。

二つ目のクイズは、人は1日にどれぐらいの唾液をつくるかという問題でした。何と1500mlだそうです。生徒たちで知っている人も大勢いました。

その次に虫歯がどのようにできるか、学びました。

虫歯は歯垢（プラーク）が原因。歯は、酸に弱く、特に甘い飲み物、ジュース、スポーツドリンク、炭酸等で虫歯になり易く、お茶、水、牛乳ではないそうです。だから甘い物を食べた後の歯磨きは重要です。歯磨きは歯垢をとるためにおこないます。ここで三つ目のクイズが出ました。

歯ブラシはどのぐらいの周期で交換しないとダメか。

答えは1ヶ月です。歯磨きの歯ブラシの持ち方は、鉛筆もち、そして歯と歯茎の間を磨く、横に細く動かすことがコツです。歯肉炎、歯周炎等にならないためにもていねいに磨くことが必要です。

最後のクイズは、歯がケガなどで抜けたときの応急措置について。

答えは、特別な液がない限り、抜けた歯を牛乳などに入れて保管し、そのまま歯医者さんにもっていく事が大切だそうです。歯の歯根膜が再生しなくなるからだそうです。

歯科巡回指導では、知らないことをおかげさまで楽しく学ぶことができました。

皆さん、日頃の歯磨きは大切にしないとイケないですね。



## 「独自大会」(朝日新聞・天声人語より)

太鼓などの鳴り物は禁止。大声を発する応援もダメ。優勝しても甲子園行きはなし。コロナ対策を施しつつ各地で開催中の高校野球「独自大会」。その様子を試合会場で見てみた。

秋田市さきがけ八橋球場の場合、入れるのは検温した保護者のみ。「ウォリャー」と打者が発する声が耳に刺さる。夏といえば負けて泣き崩れる印象があるが、意外にも敗退した3年生たちが悔しそうに見えない。

「試合ができて満足」「区切りがついた」。すがすがしい笑顔で球場を後にした。



「気持ちは痛いほどわかります。最後の夏は忘れられないもの」試合のない寂しさに比べたら、大敗でもプレーできた方が何倍かうれしい」。そう語るのは秋田市職員の佐藤雅之さん（53）。球場整備を担当して30年超という元球児である。角館工高の投手としてこの球場に立った。二回戦で敗れたが、もともと甲子園など夢のまた夢。プロ野球の公式戦も開催される大舞台を堪能した。

「今は老朽球場ですが、当時は秋田の甲子園でした」

試合が終わるたび佐藤さんは球児たちと丹念にグラウンドを整える。作業を見ながら思ったのは、甲子園に手が届かぬまま野球を終える大多数の球児たちのこと。そして野球以外の部活動に打ち込む高校生たちのことだ。晴れ舞台をかみしめ、力を出し切る。部活らしい部活の卒業の仕方ではないか。

梅雨の晴れ間の八橋球場には、セミ1匹の鳴き声が驚くほど響く。異例づくめの観客席で、部活の原点が見えた気がした。

## 「見えるはずだったもの、見えているもの」

男子・女子バスケットボール部  
顧問 菅原 考裕

『当たり前的事などない。』今年度多くの教育活動を通してそう強く感じている。例年であれば各校が都大会出場をかけた6月の初旬から練馬区生徒総合体育大会が行われる予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止のため大会中止が決定した。4月の春季大会中止に続き、男女ともに都大会出場を目標としてきた三年生にとっては、何よりも受け入れ難い宣告だった。6月中旬を過ぎ、チームとして気持ちの落ち着かない日々が1ヵ月を過ぎようとしていたとき、三年生代替大会の実施が決まった。

休校が始まった3月からの5ヵ月間、未曾有の日々を着実に乗り越え、一所懸命に部活動に取り組む子どもたちの表情は、何物にも代え難くとても輝いていた。大会実施に向けては多くの配慮事項があったが、その中で最も大きかったのは、無観客での試合実施である。今日に至るまで部活動を通して子どもたちとの素晴らしい時間を築くことができたのは、保護者の方々の力添えがあったからこそのものである。そんな保護者の方々に子どもたちの集大成となる姿を見ていただくことができないのは、顧問として大変心苦しいものであった。

今回の代替大会は新人大会の成績を考慮し、4グループのトーナメント方式で実施された。本校は男女ともベスト8グループに出場して男女優勝という成績を残すことができた。何よりも各チームの選手が達成感に満ちた表情で終えることができていたことに今大会の大きな意義があったと思う。

また、人々の協力によって大会を運営することの価値を強く感じた。前例のない中で大会を運営していただいた先生方、自チームの試合があるにも関わらず多くの配慮の中で会場校を引き受けていただいた学校。本当に多くの支えの中で迎えることのできた一人一人の大会であった。

未だに感染終息が見えない状況ではあるが、子どもたちの安全を第一に考え、失った時間を数えるのではなく、目の前にある時間を大切にしていきたい。



# 「自分の時間を生きる」

(8/24・2学期始業式講話)

夏休みが終わり、今日から二学期です。新型コロナウイルスの感染は依然として続いています。今後もお互いに注意した生活をしていきましょう。

ところで、皆さんは今、「自分の時間」を生きていますか。

「自分の時間を生きる」とは、「毎日の生活を自分の生活を豊かにするために生きていますか」ということです。今を意識し、日々の瞬間、瞬間を未来のために費やしたり、新しいことにチャレンジしたりすることです。

自分の時間を生きるためには、自立的に生きることが必要です。私は人生には4つの自立が必要だと考えています。

1つ目は経済的な自立です。生きるためには生活の糧を自分で生み出さなければなりません。そのために学校で学び、社会で役立つ知識を習得・活用し、表現できることが求められます。学校の役割は、今、皆さんが学んでいることが、将来「生きて働く力」となるようにすることだと考えています。

2つ目は精神的自立です。皆さんは今まで多くの人に依存して生きてきました。自分でできることはなるべく自分でするようにし、自分で気づき、考え、行動できる人になれるように努めてください。

3つ目は生活面の自立です。身体を清潔に保つことや、家での家事やその手伝いなど、家族の一員として基本的なことを身につけなければなりません。そのために現在、公立中学校の技術家庭科は男女一緒に学んでいます。

4つ目は性的な自立です。これは新しい考え方ですが、今後大切になっていきます。

「男子だから」「女子だから」ではなく、それぞれの個性を認め合い、できることを考え、男女が協働してより良い学校や社会にしていくことが求められます。LGBTも個性として認識される時代となってきました。

学校生活では、経済的自立、精神的自立、生活面での自立、性的な自立の4つの自立を図る場として考え、その中で自分の個性と向き合いながら、未来のために何ができるかを考えてもらいたいと思います。

人生は短いです。互いを尊重する中で、皆さん一人ひとりが幸せになることを望みます。

## 部活動等の報告

7/26 男女バドミントン部 練馬区3年生大会 <男子>初戦0-3中村中 第2戦0-3谷原中  
<女子>初戦2-1谷原中 第2戦1-2開進四中

8/1 サッカー部 令和2年度練馬区3年生大会サッカーの部 貫井中0-1開進四中

8/1,2 男子・女子バスケットボール部 練馬区中学校バスケットボール三年生引退大会  
<女子>優勝 33-18石神井中 27-14三原台中  
<男子>優勝 35-18三原台中 40-15豊浜中 24-20石神井中

8/1,2,8,9 陸上競技部 第66回全日本中学生通信陸上競技東京大会予選会兼令和2年度東京都中学生夏季陸上競技会(多摩・区部)予選会



男子西部共通110mH 6位 坂本翼 男子西部2,3年走幅跳 5位 安納潤之佑  
女子西部1年800m 4位 伊藤愛華 女子西部共通200m 11位 小松優花  
以上4名第66回全日本中学生陸上競技東京都大会進出

8/2 卓球部 3年生代替大会 団体戦優勝(松原, 関口, 前山, 橋本, 山根, 山縣, 山崎, 黒木)  
個人戦 3位 松原大芽 5位 関口恭央 橋本伊央里 前山颯汰  
ベスト16 山根侑大